



一隅を照らそう
7月号

306号
毎月28日発行

E-mail:info@tougakuin.jp

アナンダ

折りふしのはな

数年前に
アナベルを植えた時には
来年も咲くかしら?

と思いましたが

おかげさまで
毎年 手まりのような
大きな白い花を咲かせ
梅雨のひとときを
楽しませてもらっています (遊)

アンダリマーラの教え

住職 中島 有淳
華嚴経

仏はこの世におけるまことの師である
愚かな迷いに苦しむ者が仏に会えば
仏は智慧の光によってその闇を払う

最近のニュースは、災害はもとより狂悪な犯罪や痛ましい事件、振り込め詐欺のような、人をだます犯罪が目につきます。特に、高齢者を対象とした知能犯的な手口には、その知識と労力をどうしてもっと人のために役立つことに使えば、つくづく思うものです。

人々の迷いに限りがないから仏のはたらきにも限りがなく人々の犯罪の深さに底がないから仏の慈悲にも底がない

その昔、インドの舍衛城に残酷な凶賊がいました。
外道の教えによつて次々と人を殺して指を切り取り、糸に通して首飾りとしていたのでアンダリマーラ(漢訳では央堀魔羅・指輪外道とも)呼ばれ、恐れられていきました。千人目に母を殺そうとする時、ブッダが赴いて教化するのです。

アンダリマーラは、その時ブッダを殺そと背後から近づくのですが止まつているのに止まつていいと言うのだ」と質問します。するとブッダは「私は一切の生類に対して害する心を抑制しているから止まつているのであり、おまえは生類に対する害する心を抑制していないから、止まつていいのだ」と説明しました。

ここで「なぜおまえは歩いているのに止まつていると言い、私が止まつているのに止まつていいと言うのだ」と質問します。

するとブッダは「私は一切の生類に対して害する心を抑制しているから止まつているのであり、おまえは生類に対する害する心を抑制していないから、止まつていいのだ」と説明しました。

この大きな機縁によつてアンダリマーラは心から宗教心が芽ばえたといいます。その後、彼は武器を捨てて出家し、ブッダの弟子となるのです。しかし、それまでの悪業は出家したからといって急に消え去るものではなく苦しい償いの日々が続くのです。

托鉢に出かければ人々に罵声を浴びせられたり、石や棒切れを投げかけられ、鉢を壊され傷つけられもしたことでしょう。

そうした迫害にもブッダは深い罪業の清算のため、耐え忍び、受け入れることを教えます。

やがて修行を続けた結果、残忍非道だったアンダリマーラは清々しい心の眼を開いて、遂に悟りの境地に達したということです。

現代社会にあつても、犯罪、いじめ、原発、介護、災害などない人などはいません。

どんな場面においても、その時の「わたし」という内面的な心の世界が、それからの縁に影響を及ぼします。それが同時に「因」となり、因縁となり周囲と係わっていき、やがて「果」となるのです。

1月例行事案内	
◎八 日	午後二時
薬師如来祈禱会	観音經讀誦
◎十一日 午後二時	
智泉院法要日(於・日本橋茅場町)	
◎十八日 午後二時	
観音經讀誦法要(於・神木觀音堂)	
◎二十八日 午後二時	
不動明王護摩供修行	

*毎朝六時より公開で朝のお勤めをしております
ご都合のよろしい時にはご一緒にどうぞ

夏休み子供止觀(坐禪)会 ご案内	
恒例となりました坐禪会を下記のごとく行います。	
8日間ですが、自由にご参加下さい。	
大人の方も歓迎します。	
記	
*日 時 7月24日(水)~31日(水)	
*時 間 每朝7時より7時40分まで	
*場 所 等覺院本堂にて	
	<無料>

